

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月31日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|-------------|
| 事業所番号 | 0970201232 | | |
| 法人名 | 医療法人孝栄会 | | |
| 事業所名 | 陽だまり | | |
| 所在地 | 栃木県足利市島田町754-1 (電話) 0284-70-0131 | | |
| 評価機関名 | 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 栃木県宇都宮市若草1-10-6 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年10月7日 | 評価確定日 | 平成20年10月31日 |

【情報提供票より】(平成20年9月21日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------|--------------------------------|----|
| 開設年月日 | 平成17年4月1日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9人 |
| 職員数 | 12人 | 常勤11人(うち兼務3人), 非常勤1人, 常勤換算9.5人 | |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|-----------------|--|--|
| 建物構造 | 木造 1階建ての1階部分 | | |
|------|-----------------|--|--|

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|-----------------|------------|------------|--|
| 家賃(平均月額) | 28,500円 | その他の経費(月額) | ・理美容代—1,950円/回 ・水道光熱費—500円/日 ・教養娯楽費—100円/日 ・おむつ代—30円・150円/枚 ・日常生活品費—370円/日 |
| 敷金 | 無 | | |
| 保証金の有無(入居一時金含む) | 無 | 有りの場合償却の有無 | — |
| 食材料費 | 朝食 | 400円 | 昼食 400円 |
| | 夕食 | 400円 | おやつ 100円 |
| | または1日当たり 円 | | |

(4) 利用者の概要(平成20年9月21日現在)

| | | | | | |
|-------|--------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 9名 | 男性 | 名 | 女性 | 9名 |
| 要介護1 | 3名 | 要介護2 | | | 1名 |
| 要介護3 | 4名 | 要介護4 | | | 1名 |
| 要介護5 | 名 | 要支援2 | | | 名 |
| 年齢 | 平均 84歳 | 最低 | 77歳 | 最高 | 91歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---|
| 協力医療機関名 | 今井病院, 足利中央病院, 柳田医院, 増田医院, みくりや整形外科, うるしばら歯科 |
|---------|---|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームの特徴として管理者が「食」をあげているとおり、全員ではないが入居者がかわるがわるキッチンに立って調理したり、それが難しくともテーブルで和えものをしていたり、食後は全員が自分の食器は自分で洗っていたりと入居者と職員で生活を一緒につくっている。開設から3年半が経過し、地域との交流も深まり、近所で不幸があった時にお悔やみに伺うなど地域の一員としての付き合いをしている。地域の高齢者の集まりである友々サロンに出掛けたり、馴染みの美容院に出掛けたりと地域の中での暮らしも積極的に支援している。仕事道具の危険性などについて話し合いながら、昔していた仕事を生活の中に取り入れている方もおり、「今」「その人らしさ」を実現するための支援に努めている。ゆったりした職員配置、なにかあった時の応援態勢など法人の理解・バックアップもある。

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 外部評価の結果は運営推進会議に報告し、話し合いを重ねて老人会との交流を深めたり、門扉の鍵について職員間で話し合いをするなど、改善及び改善に向けた検討をしている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、職員全員で取り組み、最終的に管理者がまとめた。 |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 本人、家族、自治会会長・副会長、友々サロン会長、老人会会長、民生委員、市職員がメンバーになっており、ホームからの報告をしたり、地域との交流について相談したり、防災など時宜に合ったことについて意見を交換したりしている。メンバーとして新たに老人会会長に加わってもらい、運営推進会議を通して老人会との交流が深まった。 |
| 重点項目③ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が訪れた際にアルバムを見てもらって報告したり預かり金のお納帳を確認してもらったりしている。毎月個人別に日々の様子を詳細につづったお便りを家族に送付している。お便りには本人の写真のほか、当月の活動報告・次月の予定なども掲載されている。また、必要に応じて電話での報告や相談などを行っている。職員が替わった時は何かの機会に紹介している。重要事項説明書にホームの苦情相談窓口・苦情処理手順、市・国保連・県運営適正化委員会の苦情相談窓口を明記している。意見箱を置いている。春先の旅行や敬老会など家族との接点づくりもしている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 祭りや体育祭など地域の行事に参加したり、育成会の廃品回収に協力したり、自治会の清掃活動に職員が参加したりしている。おすそ分けやお茶飲みなど近所づきあいもしている。毎月行われる地域の高齢者の集まり(友々サロン)に入居者が交代で参加したりしている。地元の友人が訪ねてくる入居者もいる。近所で不幸があった時にお悔やみに伺うなど地域の一員としての付き合いをしている。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「私たちは、入居者様が重ねてこられた経験、入居者様が今、持っている力、今住んでいる地域（まち）、今、陽だまりで提供できること、を最大限活かす努力を惜しみません。そして『その人らしく』『いきいきと』生活していただくことをお手伝いし、『その人らしく』いつまでも…を目標にします。」をホームの理念としている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | ホームの理念は、開設時に職員で話し合っ作ったものであり、職員の交代も少ない。入居者の昔していたことや特技を活かし、また、今この人にとって何が必要か、今この人の思いはどこにあるのかを職員で話し合いながら「その人らしい」暮らしを支えるよう日々取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 祭りや体育祭など地域の行事に参加したり、育成会の廃品回収に協力したり、自治会の清掃活動に職員が参加したりしている。おすそ分けやお茶飲みなど近所づきあいもしている。毎月行われる地域の高齢者の集まり（友々サロン）に入居者が交代で参加したりしている。地元の友人が訪ねてくる入居者もいる。近所で不幸があった時にお悔やみに何うなど地域の一員としての付き合いをしている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 外部評価の結果は運営推進会議に報告し、話し合いを重ねて老人会との交流を深めたり、門扉の鍵について職員間で話し合いをするなど、改善及び改善に向けた検討をしている。今回の自己評価は、職員全員で取り組み、最終的に管理者がまとめた。 | | |

陽だまり

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|----------------------|---|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 本人、家族、自治会会長・副会長、友々サロン会長、老人会会長、民生委員、市職員がメンバーになっており、ホームからの報告をしたり、地域との交流について相談したり、防災など時宜に合ったことについて意見を交換したりしている。メンバーとして新たに老人会会長に加わってもらい、運営推進会議を通して老人会との交流が深まった。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 運営推進会議で意見交換をしたり、運営推進会議の議事録を市役所に送付したりといったことのほか、電話で相談をしたりしている。管理者及び法人の事務担当者が主に市との連絡の窓口になっている。 | ○ | 友々サロンとの付き合いや老人会との交流などの地域との付き合いの中で、今後地域の福祉課題を発見することも考えられる。また入居者も地域住民であるという観点から、積極的に課題を市に投げかけながら共に認知症ケアを推進していく関係をつくっていくことにも期待したい。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族が訪れた際にアルバムを見てもらって報告したり預かり金の出納帳を確認してもらったりしている。毎月個人別に日々の様子を詳細につづったお便りを家族に送付している。お便りには本人の写真のほか、当月の活動報告・次月の予定なども掲載されている。また、必要に応じて電話での報告や相談などを行っている。職員が替わった時は何かの機会に紹介している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 重要事項説明書にホームの苦情相談窓口・苦情処理手順、市・国保連・県運営適正化委員会の苦情相談窓口を明記している。意見箱を置いている。春先の旅行や敬老会など家族との接点づくりもしている。家族からの要望や意見は申し送り簿で共有している。 | ○ | 9月に敬老会を行った時に初めてすべての家族の参加があり、今後は忘年会などの開催も検討してみたいと考えている。また、家族に職員全員の名前を覚えてもらっているか不安があるとのことで、もっとアピールしたいと考えている。家族と職員との馴染み・信頼関係を深めていきながら、家族が率直に意見等を言える雰囲気づくりを更に進めていくことを期待したい。 |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | ここ1~2年の職員の交代はほとんどない。職員の交代があった時は、周りの職員がカバーして入居者に影響がないように配慮している。離職をした職員も遊びにきたりと関係を切らない配慮もしている。ゆとりのある職員配置や応援職員など法人からのバックアップもあり、働きやすさに配慮されている。 | | |

陽だまり

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|--|----------------------|---|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内の勉強会のほか、ホームでもミーティングの際にテーマを決めて勉強会の時間をもっている。認知症介護実践研修を計画的に受講しており、5名の修了者がいるなど外部研修の機会も積極的に活用している。外部研修受講後は研修内容の伝達をして、職員間での共有を図っている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 県及び全国のグループホーム協会に加入しており、研修などに積極的に参加している。管理者は市内の複数のホームの管理者と集まる機会をつくっており、連携を図っている。職員が他事業を見学する機会もつくっている。 | ○ | 職員が同業者との交流をもっと持てるような機会をつくっていきたいと考えているので、管理者の持つネットワークを活かしながら更に充実した取り組みをしていくことに期待したい。 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | ここのところ新しく入居した方はいないが、入居前にはホームに来て雰囲気を見てもらい、それが難しい時には職員が入居者のもとを訪れて雰囲気が分かるような説明をすることとしている。 | ○ | 今後、入居がある時には、できる範囲で多くの職員に事前に会ってもらっておくことなども検討している。友々サロンや老人会など、地域の高齢者との接点を大切にしていることも活かして、普段の付き合いから入居につなげていくような取り組みにも期待したい。 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 炊事、洗濯、掃除など入居者のできることに配慮しながら本人が、あるいは職員と一緒にいる。訪問日にキッチンで料理をする方がいたり、リビングで和えものをつくっている方がいたりそれぞれのできることに配慮しながら一緒に生活をしている様子が見られた。調理の仕方や習わしごとなど入居者から教わることも多い。 | | |

陽だまり

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 今なにをしたいのか、そのつど聞きながら思いの把握をするように努めている。入居当初にアセスメントをして昔していたことなどを把握し、生活の中で情報を付け加えている。仕事道具の危険性などについて話し合いながら、昔していた仕事を生活の中に取り入れている方もいる。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人・家族、必要によって医師や看護師の意見を踏まえ、また友人や親戚からの情報なども参考にしてカンファレンスで職員の気づきなども取り入れて介護計画を作成している。毎月家族に送付している個人別のお便りは、その月毎に入居者ごとの担当職員を変えており、職員が入居者を知ろうとすることに一役買っている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 3ヵ月に1回は介護計画の見直しをしている。期間中に変化がないことも多いが、こまめな見直しをし、目標などにも少しずつ変化が見られる介護計画になっている。また、見直し以前に状態の変化等があった時には、そのつど見直しをしている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 医療連携体制の加算を受けており、法人の医師や看護師と連携している。受診は家族が対応することになっているが、状況によっては職員が付き添っている。入居者が主役になっての食事づくりや以前していた仕事の支援など、理念にそった柔軟な支援をしている。 | | |

陽だまり

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|--|----------------------|--|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人・家族の希望にそって、かかりつけ医での受診を継続できるよう支援している。通院は家族が対応することとなっているが、処方薬の情報などをやり取りして適切な医療が受けられるよう配慮している。母体が医療法人であり、協力医療機関も多い。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化・終末期ということが想像しにくい現状ではあるが、開設から3年半が経過し、身体的な部分や意欲などの変化もでてきており、1対1で対応しないとできないことも増えてきている。継続的な医療が必要になった場合は難しいが、状況によって対応していきたいと考えている。 | ○ | 管理者としてはできる限りの対応をしていきたいと考えており、職員とも話をすることもある。ホームでの対応に限界があるにせよ、運営者とも相談しながら、入居者の思いにそった生き方の支援のために必要な他機関との連携など、準備を進めていくことに期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 入居者一人ひとりの尊厳を傷つけない言葉掛けに気をつけている。丁寧な言葉ではなく親しみのある話し方をしている。個人記録などは事務所で管理し、継続的に記録が必要な日々の記録は、使用の都度キッチン上部の扉付きの棚にしまうなどプライバシーに配慮した扱いをしている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床時間や食事の時間など一人ひとりのペースにそった生活を支援している。買物に出掛けたり、馴染みの美容院に行ったりと希望にそった支援にも努めている。食事の入居者が主体となつてつくっており、昼食も12:30になったり13:00になったりと慌ただしさのない生活になっている。 | | |

陽だまり

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|--|----------------------|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 「食」はホームの特徴として捉えていることもあり、食を通じた生活の支援ということも意識されている。チラシや料理本を見ながら一緒に献立づくりをするところから始まり、全員ではないが入居者がかわるがわるキッチンに立ち、キッチンに立っていない方もテーブルで和えものをしたりしていた。食後の洗い物は自分のものは自分で洗っていた。職員も入居者と一緒と同じものを食していた。午後には調味料を買って帰ってきた入居者の姿が見られた。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | おおむね16:00～18:30ぐらいの時間帯で、入浴の順番や仲良し同士で入りたい方など希望にそった入浴の支援をしている。ゆず湯や菖蒲湯など季節感にも配慮している。2～3日に1度は入浴してもらえるように支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | できることやその日の気分などに配慮しつつ、家事は皆で行うものということで全員に声をかけ、調理、後片付け、掃除、洗濯物干しなどを行っている。料理や髪染めなど自分の得意なことで力を発揮する方もいる。外出やカラオケ、雑誌読みなど楽しみ・気晴らしも取り入れている。 | ○ | 今まで趣味活動をしていた方も、だんだん身体的に億劫になってきているとのことで、今後の支援をどうしていくかということが課題だとホームとしては感じている。個々への対応とともにホームの今後の姿を考えるという意味でも、入居者や職員と「今」をどのようにつくっていくか話し合いながら、支援を充実していくことに期待したい。 |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 毎日交代で買い物に出掛けたり、散歩に行ったり、近所に「おすそ分け」をもらいに行ったり、美容院に行ったり、友々サロンに出掛けたりと外出の機会は多い。庭にテーブル・ベンチがあり、訪問日にもそこで過ごしている方がいたり、庭を歩く方がいたり和外気に触れる時間を自然につくっている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は玄関に鍵をせず、自由に室内と庭を歩き来している入居者の様子が見られた。入居者の安全を考慮して門については施錠し、外出の際には職員が付き添っている。 | ○ | 門は閉まっても、庭には自由に出られるようになっていたので圧迫感はないが、門の施錠について今後も安全性を考慮しながら考えていくとしている。地域との付き合いも深まってきているので、今後も入居者のより自由な生活を追求するという意味で検討を重ねていくことに期待したい。 |

陽だまり

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|------|---|---|----------------------|---|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年1回消防訓練を実施している。また、見学ではあるが地域の防災訓練にも参加している。運営推進会議で防災について取り上げて話し合っている。地域の連絡網にも入れてもらっている。地域の防災対策についてこれから話し合いが行われる予定であり、ホームからも参加することになっている。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 調理は料理本やチラシを見ながら入居者と一緒に考えているが、食事内容を記録し、管理栄養士に助言をもらっている。食事摂取量を記録し、週1回体重測定をし、栄養・水分が適切に取れるよう支援している。塩分を考慮して汁物を牛乳に変えたりもしている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 木調の内装になっており、キッチンや風呂など設備や調度は家庭的なものを使っている。室内には季節に応じた手作りの作品を飾ったり、入居者の育てている植物のコーナーをつくったり、昔のものなどをおいている。雑誌などは手に取りやすい棚にしまっている。テレビ前のソファや畳スペースなど思い思いの場所で過ごせるようになっている。音・光・換気など適切に配慮されていた。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は本人・家族の自由にしてもらっており、飾り物などがされているが、全体的にシンプルな居室が多かった。日中は共用スペースで過ごす方が多い。 | ○ | 「その人らしく」という理念からすると、それぞれに更に特徴ある居室づくりということについて、職員間あるいは本人・家族と改めて話し合ってみることを期待したい。 |

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。